

法話

いつも照らされている

これ以上、阿弥陀さまに
心配かけたくない

西川雅人師

本願寺派総合研究所研究員

影を見て光を知る

私は雨の日以外ほぼ毎日、早朝ウォーキングをしています。早起きして約1時間、季節ごとに移り変わる田舎の風景を楽しみながら、朝の澄みさった空気の中を歩くのは本当に気持ちのいいものです。

1月末の夜明け前、星も見えない暗い道を防寒具に身を包んで歩いていたら、このことです。途中でふと下を見ると、両手を振って歩く私の短い影が見えるのです。私の前になぜ影が？と思議に思っ振り返ると、なんと、先ほどまで雲に隠れていた月が、まるでスポットライトのように私を照らしているのです。
家を出た時は雲に隠れていた月が、いつの間にか雲が流れて顔を出していたのです。

未明の暗い道を一人で歩いていて、思っていた私は、全く月に気づかず、照らされてできた自分の影を見てやっとなげき、何と何とも言えない不思議な感動を覚え、しばらく月をながめていました。

静かに光る月を見ていると、今から10年前に87歳で住生した母とある出来事が思い出されました。母は長年、小学校の教諭をしており、しつけには厳しい人でした。50年以上も昔になりましたが、私が小学1年の時です。秋の夕暮れ、友達と遠くまで遊びに行っていた帰り道、私は道端に落ちていた自動車の小さな部品を拾って帰ったことがありました。それを見つけた母はたいそう怒り、元あった場所に戻してくるまで家に入れないと、玄関の扉を閉めてしまったのです。
あたりはもう薄暗く、泣きながら歩き続けた私は、ようやくやく拾った場所までたどりつき、部品を置いて後ろを振りかえった時、村はずれの民家の塀越しに私を

見つめる母の顔が見えたのです。

母は扉を閉めた後、私の後ろを気づかれないようにそっとついて来ていたので、私は母に駆け寄って「ごめんさい」と言った後、二人で手をつないで帰ったことを今でもよく覚えています。

煩悩の身のままで

親鸞聖人は『高僧和讃』に、
煩悩の光明みえざれども
大悲ものうき事なくて
常にわが身をてらすなり
と詠まれ、阿弥陀さまの攝取の光明は、煩悩にまみれた私の眼ではその光を直接見ることはできませんが、その大いなるお慈悲は、たとえ私が忘れてしまっても、倦きることなく、昼も夜も私のことを照らしまもってくださるとよろこばれていきます。
私は、阿弥陀さまの光明やお姿は見えなくても、夜空の月や、あの時の母のよう、常に見ておられると感ずることがあります。普段の生活の中で喜怒哀

楽に流され、怒ったり愚痴を言ってしまったり、心の中に不安や恐れ、悲しみや自分ではどうすることもできない苦しみに襲われたとき、その原因がほかならない私自身の自分勝手な欲望であることに気づかされ、後悔とともに思わずお念仏がこぼれ出ることがあります。

私を苦しめる煩悩、つまり私が自分の影に気がつくということは、私の心が心配で心配で目が離せない、常に私を見まもってくださる阿弥陀さまの攝取の光明に照らされていることにほかなりません。光が届いているからこそ、影を知ることができず、もし光がなかったら、それこそ真っ暗な闇です。
親鸞聖人の「正信偈」に、「煩悩を断ぜずして涅槃を得るなり」とあります。
これは「自ら煩悩を断じ切ることなくそのまま、浄土で仏のさとりを得ることがができる」と訳されます。「煩悩のまま」とは自分の煩惱に気づいた人の言葉に

ほかなりません。人間の身体を有するかぎり、人間の苦悩から逃れることはできず、命終わる時まで心身をわずらわす煩悩がなくなることはありません。

しかし、煩惱具足の存在である私だからこそ、いよいよ阿弥陀さまの摂取のほたけの目当てであったと気づいたならば、これ以上、阿弥陀さまに心配をかけたくないとの心が起こってくるのではないのでしょうか。親は子どもの行為が許せない時、それはいけないことだと気づかせたくて叱ります。

しかし、これは子どものことが心配でたまらないという親心であって、やがて子どもがそれに気づいて、もうこれ以上、親に心配かけたくないと思えた時、今まで育てられた有り難さを知ることになるのではないのでしょうか。母に叱られたことが、懐かしく記憶に残っていることが嬉しいのです。

本願寺新報
令和元年5月10日号掲載

お知らせ

門徒子弟研修会

お坊さんとサマーキャンプ
本願寺派東京教区主催
で、小学生を対象とした「サマーキャンプ」が実施されます。毎年、教区内の各組からスタッフを出して行われていますが、今回は、芝組(教誓寺を含む14ヶ寺)の長徳寺さんが代表になって計画されました。教誓寺からは、副住職がスタッフとして奉仕いたします。日程は、8月19日(月)から20日(火)の一泊二日です。費用は一人5千円で、交通費と食費(一日目の昼食から二日目の昼食まで)を含みます。集合・解散は築地本願寺です。
東京教区からの補助があるの、かなりお得なキャンプです。
教誓寺への申し込みは7月31日までです。お寺に申込書を用意してありますので、どうぞお問い合わせください。

孟蘭盆会法要のご案内

七月十四日(日)

午後二時より

教誓寺門信徒皆様

の法要です。昨年のお盆以降から今年のお盆までにお亡くなりになった方々の「新盆」法要を併せてお勤め致します。

法要の中で御法名をお読み致しますので新盆にあたられる方は、是非お参り下さい。

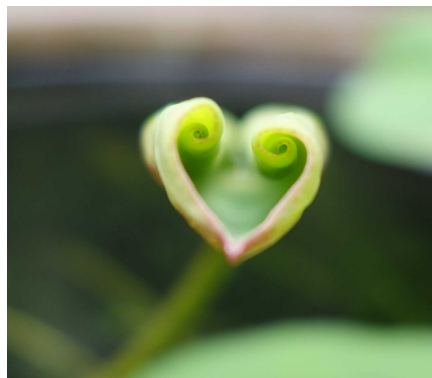
お盆の期間
7月13日(金)～

16日(月)

○教誓寺維持会費について
本年度も維持会費ご納入下さり有り難うございます。皆様のご納入は順調ですが、残念ながら住所が不明になったりして、しばらく連絡が取れなくなっている方も少数ながら御座います。転居なさるときには、お

寺へもご一報下さるようお願い致します。
これからご納入下さる方も、宜しくお願い致します。

教誓寺の蓮



今年のハートです

20年位前にいただいて、鉢に移してからは、花を見るのが出来ませんでした。今年の3月に植え替えをして、なんとか葉っぱが出るまでは育ちました。いつものハートも見られるようになり、花が咲くのが楽しみです。

浄土真宗本願寺派 圓生山 教誓寺
108-0073
東京都港区三田 一十二十一
〇三(三四五)二三九
kyouseiji@is4.so-net.ne.jp